

広告

巨木スポット浜益への誘い

浜益の山中に数百年の樹齢を持つツナラ、オンコの巨木があることはつとに知られているが、さらに厚田境に存在する巨木ナラは関係者の中で言い伝えられており、最近写真を見る機会があった。黄金山に続く深い森、幕末に開かれた山道など、いずれもが時空の織りなす遺産であつて、有難いことである。これらを取りも直さず地域資源であり、成熟社会において劇的な光を放つ可能性は高い。▼ヒトは何故死をかってまで登攀するののか。近年はシニア層のトレッキングが盛んになっている。トレイルランニングなど健康ブームだけでは説明できない。むしろ、成熟した社会故に、自らに負荷をかけた行動は、精神的に満ちたりた喜びとしての達成感を得ることができる。このような時代の要請に、浜益の巨木たちは十分応えてくれるだろう。

▼わが身を巨木に託した姿を想像してほしい。圧倒的な存在感こそ癒しの極みではなからうか。病気からの快癒を請い願う、民衆信仰の様を遺すその空気感は、まさに、ハウスボットでもある。3本の巨木を歩行で巡る2日ほどの行程は、生命力や自然との共生など、いずれも琴線に触れる良質な糧を伝えてくれるはず。蓄えた幹の太さは優に4メートルを超えている。

(市長)